



## 安全データシート (SDS)

## 1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社  
東京都中央区日本橋本町4-3-8  
担当

TEL(03)3270-2701  
FAX(03)3270-2720  
緊急連絡 同上  
改訂日 2024/06/19  
SDS整理番号 13145250

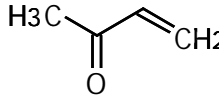
製品等のコード : 1314-5250

製品等の名称 : メチルビニルケトン (3-ブテン-2-オン)

推奨用途 : 試薬

参考: 用途その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)  
アルキル化剤、合成樹脂原料、ステロイド、レチノールの合成原料

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



## 2. 危険有害性の要約

## GHS分類

物理化学的危険性	
引火性液体	: 区分1
自己反応性化学品	: 区分G
健康に対する有害性	
急性毒性(経口)	: 区分2
急性毒性(経皮)	: 区分1
急性毒性(吸入:蒸気)	: 区分1
皮膚腐食性/刺激性	: 区分1
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 区分1
皮膚感受性	: 区分1
特定標的臓器毒性(単回ばく露)	: 区分1(呼吸器、腎臓)、 区分3(麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露)	: 区分1(呼吸器)
誤えん有害性	: 区分に該当しない [区分2(国連GHS分類)]
環境に対する有害性	
水生環境有害性 短期(急性)	: 区分1
水生環境有害性 長期(慢性)	: 区分1

注意喚起語: 危険

## 危険有害性情報

極めて引火性の高い液体及び蒸気  
飲み込むと生命に危険(経口)  
皮膚に接触すると生命に危険(経皮)  
吸入すると生命に危険(蒸気)  
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷  
重篤な眼の損傷  
アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ  
呼吸器、腎臓の障害  
眠気又はめまいのおそれ

長期又は反復ばく露による呼吸器の障害  
 飲み込んで気道に侵入すると有害のおそれ  
 水生生物に非常に強い毒性  
 長期的影響により水生生物に非常に強い毒性

## 注意書き

## 【安全対策】

熱、高温のもの、火花、裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。

容器を密閉しておくこと。

容器を接地しアースを取ること。

防爆型の電気機器、換気装置、照明機器などを使用すること。

火花を発生させない工具を使用すること。

静電気放電に対する予防措置を講ずること。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

眼、皮膚又は衣類につけないこと。

取扱い後は、よく手を洗うこと。

この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、呼吸用保護具を着用すること。

環境への放出を避けること。

## 【応急措置】

飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。直ちに医師に連絡すること。

皮膚（又は髪）に付着した場合：直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を水又はシャワーで洗うこと。直ちに医師に連絡すること。

眼に入った場合：水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。

ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師に連絡すること。

気分が悪い時は医師に連絡すること。

皮膚刺激又は発疹が生じた場合：医師の診察、手当を受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

漏出物を回収すること。

## 【保管】

直射日光を避け、容器を密閉して換気の良い冷暗所に施錠して保管すること。

## 【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。

(注) 物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

## 3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	3-ブテン-2-オン (別名) メチルビニルケトン、ビニルメチルケトン、 1-ブテン-3-オン、エテニルメチルケトン、 メチルエテニルケトン (英名) 3-Buten-2-one (TSCA名称)、Methyl vinyl ketone、 1-Buten-3-one、Methylvinyl ketone、 Methyl ethenyl ketone、 Butenone (EC名称)
成分及び含有量	:	メチルビニルケトン、 85.0%以上
安定化のための添加物	:	重合防止剤として、ヒドロキノンを約1%含有する。
化学式、構造式	:	C <sub>4</sub> H <sub>6</sub> O、 CH <sub>3</sub> COCH:CH <sub>2</sub>
分子量	:	70.09
官報公示整理番号	:	(2)-567
化審法 安衛法	:	公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	78-94-4
EC No.	:	201-160-6
危険有害成分	:	メチルビニルケトン

## 4. 応急措置

吸入した場合 : 直ちに医師に連絡する。  
 直ちに、被災者を新鮮な空気のある場所に移す。  
 被災者を毛布等でおおって体を保温し、呼吸しやすい姿勢で安静にする。  
 呼吸困難又は呼吸が停止している時は、直ちに衣類をゆるめ、呼吸気道を確保した上で人工呼吸又は酸素吸入を行なう。呼吸をしていて嘔吐が

- ある場合、頭を横向きにする。  
 気分が悪い時は、医師の手当てを受ける。  
 直ちに医師に連絡する。
- 皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類、靴などを脱ぐ。  
 速やかに、皮膚を多量の水と石鹼で洗い、医師の診察を受ける。  
 皮膚刺激、発疹が生じた場合、気分が悪い時は医師の手当てを受ける。  
 汚染された作業衣は作業場から出さない。  
 汚染された衣類を再使用する前に洗濯する。
- 目に入った場合 : 直ちに医師に連絡する。  
 直ちに、水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗淨すると、かえって目に障害を起すことがあるので注意する。  
 まぶたを親指と人さし指で上げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗淨する。  
 次に、コンタクトレンズを着用して固着していなければ除去し、洗淨を続ける。  
 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、治療を受ける。  
 眼刺激が消失しても、遅れて障害が現れることがあるので、必ず医師の診断を受ける。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡する。  
 口をすすぎ、うがいをする。無理に吐かせない。  
 強制的に吐かせると、本製品が揮発性のために嘔吐物の一部が肺に入り高熱が出て出血性肺炎を引き起こす危険性があるため、無理に吐かせてはいけない。  
 コップ1、2杯の水を飲ませる。  
 意識がない時は何も与えない。  
 嘔吐が自然に生じた時は、気管への吸入が起きないように身体を傾斜させる。  
 速やかに、医師の診断、治療を受ける。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 :  
 吸入 : 灼熱感、咳、咽頭痛、息切れ、息苦しさ、頭痛、めまい、振戦。  
 肺水腫の症状は 2~3 時間経過するまで現れない場合が多く、安静を保たないと悪化する。したがって、安静と経過観察が不可欠である。  
 皮膚 : 刺激、発赤、皮膚熱傷。他の症状については「吸入」参照。  
 眼 : 催涙性。発赤、痛み、重度の熱傷。  
 経口摂取 : 灼熱感、腹痛、ショック又は虚脱。  
 他の症状については「吸入」参照。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者は、状況に応じて適切な保護具を着用する。  
 医師に対する特別な注意事項 : 安静と症状の医学的な経過観察が必要。

## 5. 火災時の措置

- 適切な消火剤 : 本製品は可燃性であり、極めて引火性であり燃焼しやすい。  
 水溶性液体用泡消火薬剤、粉末消火薬剤、二酸化炭素
- 使ってはならない消火剤 : 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。  
 棒状放水 (本品があふれ出て、火災を拡大するおそれがある。  
 本品は水に可溶であるが、比重が小さいので本品が水に浮き、着火した本品が飛散して火災を拡散する恐れがある。)
- 特有の危険有害性 : 引火性が極めて高い。  
 極めて燃え易いので、熱、火花、火災で容易に発火する。  
 引火点(-7 )以上では蒸気/空気の爆発性混合気体を生じることがある。  
 本製品の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがあり、屋内、屋外、下水溝などでの遠距離引火の可能性がある。  
 加熱により容器が爆発するおそれがある。  
 火災によって刺激性又は毒性のガスを発生するおそれがある。  
 消火水は汚染を引き起こすおそれがある。
- 特有の消火方法 : 火元への燃焼源を遮断する。  
 火災周辺の設備、可燃物に散水し、火災延焼を防ぐ。  
 危険でなければ火災区域から容器を移動する。  
 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。  
 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。  
 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は風上から行い、空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。  
 漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。  
 皮膚、眼などの身体とのあらゆる接触を避ける。

環境に対する注意事項 回収、中和	風上から作業し、ミスト、蒸気、ガスなどを吸入しない。 蒸気が多量に発生する場合は、水噴霧し蒸気発生を抑える。 密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。 河川、下水道、土壌に排出されないように注意する。 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、密閉できる空容器に回収する。後で 廃棄処理する。 大量の場合、盛土で囲って流出を防止し、液面を泡で覆い密閉できる容器 などに回収する。
封じ込め及び浄化の方法	機材 危険でなければ漏れを止める。 漏洩エリア内で稼働させる設備・機器類は接地する。
二次災害の防止策	事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。 周辺の発火源を速やかに取除く。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

## 7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い 技術的対策	裸火禁止、火花禁止、禁煙。酸化剤との接触禁止。 引火点(-7 )以上で使用する場合は、工程の密閉化および防爆型換気 装置を使用する。 ミスト、蒸気、ガスの発生を防止する。 指定数量以上の量を取扱う場合、法で定められた基準に満足する製造所、 貯蔵所、取扱所で行なう。 指定数量以上の危険物を貯蔵し、取り扱う場合は消防法に基づく許可が 必要で、危険物貯蔵所に保管する。 指定数量の1/5以上、1未満(少量危険物)の場合も、少量危険物貯蔵所 に保管し、法の規制を受け、最寄の消防署に届出を行う必要がある。 指定数量の1/5未満の危険物の貯蔵・取扱いについては届出の必要は ない。 炎、火花または高温体との接触を避ける。 静電気対策を行い、作業衣、靴等も導電性の物を用いる。 本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
局所排気・全体換気	防爆仕様の換気装置を設置し、局所排気又は全体換気を行なう。 蒸気は空気より重く、床に沿って移動することから、床面に沿って換気 する。
安全取扱い注意事項	すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。 周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。 高温になると容器内圧力が上昇し、破裂の危険性がある。 容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの 取扱いをしてはならない。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗う。
接触回避 保管 技術的対策	炎、火花または高温体との接触を避ける。 保管場所は壁、柱、床等を耐火構造とする。 保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の 軽量な不燃材料でふき、かつ天井を設けない。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な 傾斜をつけ、かつ、適切なためますを設ける。 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。
保管条件	容器を遮光し、直射日光や高温を避けて保管する。 容器を密閉して換気の良い冷暗所に保管する(防爆型冷蔵庫など)。 施錠して保管する。 危険物を貯蔵する所には「火気厳禁」等の表示を行う。 混触危険物質、食料、飼料から離して保管する。
混触危険物質 容器包装材料	酸化剤 ガラスなど

## 8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	: 設定されていない。
許容濃度(ばく露限界値、 生物学的ばく露指標)	: 日本産業衛生学会 設定されていない。
ACGIH	TLV-Ceiling(天井値) 0.2ppm 皮膚吸収あり。
設備対策	: 防爆の電気・照明機器を使用する。 作業場には防ばく型の換気装置を設置し局所排気又は全体換気を行なう。 静電気放電に対する予防措置を講ずる。 この物質を貯蔵しないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置 する。

保護具	
呼吸器の保護具	: 呼吸器保護具(有機ガス用防毒マスク)を着用する。 必要に応じて、送気マスク、空気呼吸器、又は酸素呼吸器を着用する。
手の保護具	: 保護手袋(ネオプレン製など)を着用する。
眼の保護具	: 眼の保護具(保護眼鏡、側板付き保護眼鏡)を着用する。 撥ね飛び又は噴霧によって眼及び顔面接触が起こりうる時は、包括的な化学スプラッシュゴーグル、及び顔面シールドを着用する。
皮膚及び身体の保護具	: 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具、保護長靴を着用する。 一切の接触を防止するにはネオプレン製の、手袋、エプロン、ブーツ、又は全体スーツ等の不浸透性の防具を適宜着用する。
衛生対策	: この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。 取扱い後はよく手を洗う。 汚染された作業衣は作業場から出さない。

## 9. 物理的及び化学的性質

物理状態	
性状	: 液体
色	: 無色 - 黄褐色
臭い	: 特異臭(催涙性あり)
pH	: データなし
融点	: -7
凝固点	: データなし
沸点	: 81
引火点	: -7 (密閉式)
可燃性	: 引火性
爆発範囲	: 下限 2.1vol% 上限 15.6vol%
蒸気圧	: 11 kPa(25 )
相対ガス密度(空気 = 1)	: 2.4
20 での蒸気/空気混合 気体の相対密度(空気 = 1)	: 1.1
密度又は相対密度	: 0.852 ~ 0.880 g/cm <sup>3</sup> (20 )
比重	: データなし
溶解度	: 水に混和する(溶ける)(6g/100mL、25 )。 エタノール、ジエチルエーテル、アセトンに混和しやすい。
オクタノール/水分係数	: log Pow = 0.41
発火点	: 491
分解温度	: データなし
粘度	: 0.807mPa·s(21.1 ) (粘性率)
動粘度	: データなし
粒子特性	: データなし

## 10. 安定性及び反応性

安定性(反応性・化学的安定性)	: 安定化剤を含有していないと不安定である。
危険有害反応可能性	: 過酸化剤、熱、光、酸化剤の影響下で重合する。 強塩基、強還元剤、強酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険性を有する。 この物質の蒸気は空気より重く、地面あるいは床に沿って移動することがある；遠距離引火の可能性がある。 蒸気は抑制されておらず、重合して排気孔を詰まらせることがある。 この物質の蒸気は空気と混合し、爆発性混合気体を生成する。 安定化剤を含有する製品でも、加熱されると、容器やコンテナ内の重合防止剤の防止効果がなくなり、激しい重合反応が生じる。その際、水噴霧による強力な冷却を行う(容器に爆発的な破裂が起こる為)。 ステンレス鋼は容器として耐久性がある。
避けるべき条件	: 熱、日光、光、裸火、スパーク、静電気
混触危険物質	: 強酸化剤、強力な還元剤、過酸化剤、強塩基
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素

## 11. 有害性情報

急性毒性	: 経口 ラット LD <sub>50</sub> = 23.1mg/kg (ACGIH 7th, 2001) 飲み込むと生命に危険(経口)(区分2)
経皮	: DFGOT (vol. 9, 1998)のウサギへの0.2mg/kgおよび0.05mg/kg経皮投与により3例中3例が死亡したとの記述から、区分1とした。 皮膚に接触すると生命に危険(経皮)(区分1)
吸入(蒸気)	: ラット LC <sub>50</sub> (4時間) = 0.007mg/L(2.4ppm) (ACGIH 7th, 2001)

	吸入すると生命に危険 (蒸気) (区分1)
皮膚腐食性/刺激性	吸入(ミスト) 分類できない。 : DFGOT (vol.9, 1998) のウサギの皮膚に適用した試験において、適用の1.5および15分後に炎症性変化がみられ、重度の壊死 (severe necrosis) が現れたとの記述から、腐食性があると判断し、区分1とした。 重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷 (区分1)
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	: 皮膚腐食性であり、DFGOT (vol.9, 1998) のウサギの眼に適用した試験において非常に強い角膜変性が認められたとの記述から、区分1とした。 重篤な眼の損傷 (区分1)
呼吸器感受性	: 分類できない。
皮膚感受性	: DFGOT (vol.9, 1998) に感受性が認められた1症例の報告があるとの記述があり、ACGIHでSEN (ACGIH 7th, 2001)、DFGでSh (MAK/BAT, 2004) に分類されていることから、区分1とした。また、DFGOT (vol.9, 1998) にはモルモットを用いたOpen Epicutaneous Testにおいて重度の接触性皮膚炎が認められたとの記述がある。 アレルギー性皮膚反応を引き起こすおそれ (区分1)
生殖細胞変異原性	: 分類できない。 NTP DB (2006) の雄ラット骨髄細胞を用いた小核試験の結果はequivocalであり、マウス末梢血を用いた小核試験の結果は雌で陰性、雄でequivocalであった。
発がん性	: 分類できない。 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
生殖毒性	: 分類できない。
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	: DFGOT (vol.9, 1998) のラット、ウサギ、ネコ、モルモットおよびマウスを用いた吸入暴露試験において呼吸器への影響が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述、およびDFGOT (vol.9, 1998) のウサギおよびネコを用いた経口投与試験において腎臓の損傷が区分1のガイダンス値範囲の用量で認められたとの記述から、区分1 (呼吸器、腎臓) とした。また、DFGOT (vol.9, 1998) のウサギを用いた吸入暴露試験においてflexion reflex抑制が認められたとの記述、ACGIH (7th, 2001) のヒトへの影響として麻酔作用を示すとの記述から、区分3 (麻酔作用) とした。 呼吸器、腎臓の障害 (区分1) 眠気又はめまいのおそれ (区分3)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	: DFGOT (vol.9, 1998) のラットを用いた吸入暴露試験において呼吸困難が区分1のガイダンス値範囲の濃度で認められたとの記述から、区分1 (呼吸器) とした。 長期又は反復ばく露による呼吸器の障害 (区分1)
誤えん有害性	: 13を超えない炭素原子で構成されたケトンであることから、区分2とした (国連GHS分類)。 ただし、分類JISでは区分に該当しないである。 飲み込み、気道に侵入すると有害のおそれ (区分2)

## 12. 環境影響情報

## 生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 藻類 (セレナストラム) 96時間EC50=120 µg/L (AQUIRE, 2003)  
水生生物に非常に強い有毒 (区分1)

水生環境有害性 長期(慢性) : 急性毒性が区分1、生物蓄積性が低いと推定されるもの (log Kow=0.41 (PHYSPROP Database, 2005))、急速分解性がない (BODによる分解度: 1% (BUA233, 2001)) ことから、区分1とした。  
長期的影響により水生生物に非常に強い毒性 (区分1)

残留性・分解性 : 難分解性。BOD分解度 = 1%

生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Kow = 0.41

土壤中の移動性 : データなし

オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

## 13. 廃棄上の注意

## 残余廃棄物

: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。  
都道府県知事などの許可 (収集運搬業許可、処分業許可) を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票 (マニフェスト) を交付して廃棄物処理を委託する。  
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上、処理を委託する。

必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。  
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄してはいけない。  
(参考) 燃焼法  
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉(おが屑)等に吸収させて、アフターバーナ及びスクラバ付き焼却炉の火室で焼却する。

汚染容器及び包装 : 内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。  
空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

## 14. 輸送上の注意

緊急時応急処置指針番号 : 131P

## 国際規制

海上規制情報 (IMDGコード/IMOの規定に従う)

UN No. : 1251  
Proper Shipping Name : METHYL VINYL KETONE, STABILIZED  
Class : 6.1 (毒物)  
Sub Risk : 3 (引火性液体)、8 (腐食性物質)  
Packing Group : I  
Marine Pollutant : Yes (該当)  
Limited Quantity : -  
航空規制情報 (ICAO-TI/IATA-DGRの規定に従う)  
: Forbidden (積載禁止)

## 国内規制

陸上規制情報 (消防法、道路法の規定に従う。)

海上規制情報 (船舶安全法/危険物船舶輸送及び貯蔵規則/船舶による危険物の運送基準等を定める告示に従う)

国連番号 : 1251  
品名 : メチルビニルケトン (安定剤入りのもの) [3-ブテン-2-オン]  
クラス : 6.1  
副次危険 : 3、8  
容器等級 : I  
海洋汚染物質 : 該当  
MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当  
少量危険物許容量 : -  
航空規制情報 (航空法/航空法施行規則/航空機による爆発物等の輸送基準を定める告示に従う)

特別の安全対策 : 積載禁止  
: 危険物は当該危険物が転落し、又は危険物を収納した運搬容器が落下し、転倒もしくは破損しないように積載する。  
危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬する。  
食品や飼料と一緒に輸送してはならない。  
重量物を上積みしない。  
他の危険物や燃えやすい危険物に上積みしない。  
他の危険物のそばに積載しない。  
危険物の運搬中危険物が著しく漏れる等災害が発生するおそれがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずると共に、もよりの消防機関その他の関係機関に通報する。  
移送時にはイエローカードを運搬人に保持させる。

## 15. 適用法令

労働安全衛生法 : 名称等を表示すべき危険物及び有害物  
(政令番号 第588号「メチルビニルケトン」、対象重量%は 1)  
名称等を通知すべき危険物及び有害物  
(政令番号 第588号「メチルビニルケトン」、対象重量%は 0.1)  
(令別表第9)  
(注) 令和7年4月1日以降、政令番号: 規則別表第2の2100に変更  
危険物・引火性の物 (施行令別表第1第4号)  
皮膚等障害化学物質等及び特別規則に基づく不浸透性の保護具等の  
使用義務物質「皮膚刺激性有害物質、皮膚吸収性有害物質」  
「メチルビニルケトン、対象重量%は 1」  
(安衛則第594条の2)

## 化学物質排出把握管理促進法

(PRTR法)

: 非該当〔2023年(R5年)4月1日施行の法改正にも非該当〕

消防法

: 危険物第4類引火性液体 第一石油類 非水溶性液体 指定数量200L  
危険等級 (法第2条第7項危険物別表第1)

毒劇法

: 非該当

船舶安全法

: 毒物類・毒物(危規則第2, 3条危険物告示別表第1)

航空法

: 積載禁止(施行規則第194条危険物告示別表第1)

輸出貿易管理令

: キャッチオール規制(別表第1の16項)

HSコード: 2914.19

第29類 有機化学品

・輸出統計番号(2024年1月版): 2914.19-000

「ケトン及びキノン(他の酸素官能基を有するか有しないかを問わない。)並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体  
- 非環式ケトン(他の酸素官能基を有しないものに限る。): その他のもの」

・輸入統計番号(2024年4月1日版): 2914.19-000

「ケトン及びキノン(他の酸素官能基を有するか有しないかを問わない。)並びにこれらのハロゲン化誘導体、スルホン化誘導体、ニトロ化誘導体及びニトロソ化誘導体  
- 非環式ケトン(他の酸素官能基を有しないものに限る。): その他のもの」

## 16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

## 参考文献

化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ	化学工業日報社
労働安全衛生法MSDS対象物質全データ	化学工業日報社(2007)
化学物質の危険・有害便覧	中央労働災害防止協会編
化学大辞典	共同出版
安衛法化学物質	化学工業日報社
産業中毒便覧(増補版)	医歯薬出版
化学物質安全性データブック	オーム社
公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編)	三共出版
化学物質の危険・有害性便覧	労働省安全衛生部監修
Registry of Toxic Effects of Chemical Substances	NIOSH CD-ROM
GHS分類結果データベース	nite(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
GHSモデルMSDS情報	中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じて作成しています。